小泉（こいずみ） あつし 報

香川県議会議員・無所属・議会/県政報告

2024
- 第四号 -

現在 小泉あつしが所属する委員会
- 総務常任委員会
- デジタル田園都市推進特別委員会
- 広報委員会

定例会を終えて

令和6年2月定例会の一般質問では、小豆島八十八か所霊場巡りについて取り上げ、「日本の宗教・信仰に関心の高い外国人観光客にも興味を持っていただける、訴求力の高い観光資源を積極的にPRすること」による誘客促進を要望しました。

小豆島八十八か所霊場巡りについては、かねてより関心がありました。

私が24歳の時に四国八十八箇所お遍路1200kmを30日間かけて歩いて回った経験があります。室戸岬から足摺岬までの間の長い道のりの中で水がなくなってしまい、住民の方のご厚意で空のペットボトルにお水を補給していただいたことが強く印象に残っています。その時、水道水で500mlのペットボトルを満タンにしていただいたことが本当に嬉しく、心から感動し、こらえきれず涙しながら歩を進め続けたことを今でも鮮明に覚えています。

お水を飲めることは当たり前でしょうか？

蛇口をひねったら水が出ることは当たり前でしょうか？今の能登半島の状況を考えると、「当たり前はない」ということが身にしみて感じられます。

今あるかけがえのない恩恵一つひとつの大切さに気付かされたお遍路でした。

お遍路に行った経験をどう感じ、受けとめるかは人それぞれですが、こうしたお遍路の文化が小豆島にもあり、それをもっと多くの人に知ってもらえるように、県としてできることをやっていきたいと思っていたところ、

ようやく一般質問として日の目を浴びることとなりました。

2・3月議会の小泉あつしの質問（1~4 一般質問 _ 5~7 総務委員会代表質問）

1 _ 神戸空港の国際化を見据えたインバウンドの顧客誘導について

2 _ 地域公共交通の維持・確保について

3 _ 多様な学びの場の確保について

4 _ 地域との連携による県立高校の魅力化について

5 _ せとうち讃岐ジオパーク構想について

6 _ 外国人への日本語教育の推進について

7 _ 災害時における電力供給について

小泉あつしの質問

- 一般質問 -

1・神戸空港の国際化を見据えたインバウンドの顧客誘導について

（小泉あつしの質問）

２０２２年の関西３空港懇談会で決定された国際化に向け、神戸空港では年間旅行客が国際線約１９０万人、国内線約５１０万人の計７００万人と、ピーク時の約２倍に増えるとのことである。２０２５年の大阪・関西万博も控え、香川県でも新たな観光プロモーションの必要性を感じている。特に、２０２１年、２２年と連続して「世界の持続可能な観光地ＴＯＰ１００選」に選出された小豆島への観光促進が効果的であると考えられます。小豆島は神戸からの定期旅客便もあり、香川県全体のインバウンド拡大にもつながるものと考えます。

今後どのようにインバウンドの誘客促進に取り組んでいくのか、知事に伺います。

（池田知事の答弁）

インバウンドの誘客については、現在高松空港に国際定期路線が就航しているアジアを中心に誘客活動に取り組んでいる。２０２５年には万博と瀬戸内国際芸術祭が同時開催となり、広域からのインバウンド誘客をさらに進めるチャンスであり、特に小豆島は、関西圏との地理的条件から重要な役割を担うと考えている。

昨年８月には本県や兵庫県に加え、小豆島の２町、姫路市も参加した「兵庫・香川連携会議」を開催しており、こうした枠組みを活用しながら、瀬戸内海やアート、「小豆島八十八ヶ所霊場」を含む遍路など、訴求力あるプロモーション活動に取り組んでいきたいと考えている。

2・地域公共交通の維持・確保について

（小泉あつしの質問）

小豆島でも、定期航路の休止などによって島外への移動手段の維持が課題となっている。また、島内路線バスも4月から17便が減便になるなど厳しい局面を迎えている。

高齢者などの交通弱者が急増している中、生活の不安を解消し、魅力あふれる地域をつくるため、ユニバーサルデザインタクシーの普及や、路線やダイヤを定めずニーズに応じた乗合運行を行うデマンド型ドアtoドアの運行などにリ・デザインしていく必要があると考える。小豆島を含めた県内全域での地方公共交通の維持・確保について、どう取り組んでいくつもりか。

（池田知事の答弁）

県では、小豆島の２町を含む各市町の地域公共交通会議に参画し、鉄道・航路とバスの連携強化、バス路線の再編整備に一緒に取り組んでいる。また、二種免許取得費用の一部補助などで企業の人材確保も支援している。引き続き、国や市町、交通事業者等と連携し、地域公共交通の維持・確保に取り組んでいきます。

3・多様な学びの場の確保について

（小泉あつしの質問）

文科省は令和5年3月に「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（ＣＯＣＯＬＯプラン）」で、不登校児童・生徒を受け入れる学びの多様化学校、いわゆる不登校特例校の設置や、落ち着いた空間で学習・生活できる校内教育支援センターの設置を目指している。

また、令和5年6月16日に閣議決定した教育振興基本計画では、各都道府県に1校以上の学びの多様化学校の設置が求められ、本県では、三豊市の高瀬中学校の夜間学校が指定され、不登校を経験して転入した生徒が、昨年春10代から80代の在校生などに見守られて卒業されたとのことである。今後、多様な学びの場の確保についてどのように取り組んでいくのか。

（教育長の答弁）

不登校児童・生徒への支援については、昨年7月に香川県不登校児童生徒支援協議会を設置ました。今年度中には教員向けの手引きを作成し、学びにアクセスできない子どもたちをゼロにすることを目指していきます。

校内サポートルームについては、今年度4つの研究指定校で加配教員を配置するなどしており、来年度はその取り組みを拡張できるよう努めていきたいと考えています。

市町教育委員会においても、指導主事による事業サポートなど様々な工夫をしながら、不登校傾向の児童生徒の居場所づくりに取り組んでおり、県としても支援していきたいと考えています。

4・地域との連携による県立高校の魅力化について

（小泉あつしの質問）

２０５０年の香川県の推計人口は約72万人とされ、２０００年から30万人以上減少する。高校卒業時の県外転出の影響も一因であり、人口減少を食い止めるには若者の地元離れへの対策を講じる必要がある。

大学進学までに地元への愛着が形成された若者は地元へ戻る場合も多いが、地元を離れるのが若ければ若いほど地元への愛着を感じにくくなる。令和6年度県立高校の出願状況を見ても、小豆島や東讃の多くの高校では定員を下回るところも多く、地元から離れた高校へ進学する生徒が以前より増えていると思う。少子化が進行する中、地域と県立高校の結びつきを強くし、大学進学以前に地元離れ対策を講じる必要があると考える。また、本県の「せとうち留学」制度を全国に発信するなかで、各学校の魅力を伝え、県内に来た高校生が香川を新たな「地元」として愛着を感じてもらえるよう取り組んでいただけたらと思う。そこで、県立高校の魅力化を推進するための地域との連携について、今後どのように取り組むのか。

（教育長の答弁）

現在、すべての県立高校で、地元企業や大学等の連携を行い、地域の課題研究の授業をはじめとした教育活動に取り組んでいます。

具体的には、地域の課題を解決を図る小豆島中央高校の「しまのみらいプロジェクト」や、各専門学校での地元農水産物を使った商品開発などが行われており、これらを通じて生徒の地元への理解や愛着が深まり、地域とつながりが深まることを期待しています。

「せとうち留学」については、留学生の生活全般をサポートするコーディネーターを新たに2名配置し、高校と地域との連携を深め、教育活動の広報に積極的に取り組んでもらうこととしています。

あわせて、この春卒業の「せとうち留学」第一期生の皆さんには、「香川県草の根アンバサダー」として、学んだ学校や地域の魅力をＳＮＳ等を通じて発信していただきたいと考えています。

- 総務委員会代表質問 -

5・せとうち讃岐ジオパーク構想について

（小泉あつしの質問）

大地の成り立ちを学び、活用していこうという取り組みであるジオパークを取り上げるのは、香川県には、未活用の宝物や磨かれていない宝石がたくさんあると思うからである。それらをジオというストーリーによって磨き上げ、誘客に結びつけることができる。

讃岐うどんの材料や背景、ルーツをジオの視点から見るなど、本県ならではのストーリーに着目し、魅力を発信したいと思っている。１４００万年前の奇跡の火山活動によって形成されたおむすび山や瀬戸内海の多島美、寒霞渓の稽渓谷美などの地域資源をどう守り、活用できるかは、ジオの視点からプロモーションできるかにかかっている。香川県全体を、せとうち讃岐ジオパークとして位置づけ、活用することについて、県の考えを伺う。また、日本ジオパークとユネスコ世界ジオパークの認定に向けた取り組みについて、現状と課題を伺う。

（地域活力推進課長の答弁）

現在、香川大学の長谷川特任教授を中心に進められている、「せとうち讃岐ジオパーク構想」は、香川の大地、自然、人々の暮らしや産業のルーツなどの関係性を探求するとともに、ジオツーリズムなどによる交流の活性化に取り組み、日本ジオパーク、さらにはユネスコの世界ジオパークの認定を目指している。本県も、この構想の実現を目指す「讃岐ジオパーク構想推進準備委員会」に今年度から参画している。

現状の取り組みについては、ジオに注目したシンポジウムの後援、ジオサイトを学ぶ体験型イベントの助成、高校生対象のフィールドワーク研修、瀬戸の島々の成り立ちを学ぶ瀬戸内アートサマープログラムなどを行っている。

また、ジオツーリズム推進の観点からは、ジオツアーに関する県公式観光サイトでの情報発信や、ジオの観点から香川の食文化を観光等に生かすジオガストリノミー研究への参画などに取り組んでいる。

ジオパークに認定については、地域住民が主体となってボトムアップの活動を進めていくことが必要であり、県としては、費用対効果を含め、関係者間での十分な検討が必要と考えている。

（小泉あつしの要望）

県内の自然や暮らし、産業が、ジオという視点から見直され、それらを保護・活用し、持続可能な地域づくりの取り組むことで、香川で育った子供たちが、この讃岐の大地で育ったことを誇りに思い、地元のために何かしたいと戻ってくる。そして、香川を訪れた人が、讃岐の深さを知り、もっと知りたいと長く滞在し、お金を落としてもらう。

県が中心となり、ぜひ気運醸成を図っていただきたい。そして、県内に散らばる宝石をしっかり磨いて輝かせていただきたい。

6・外国人への日本語教育の推進について

（小泉あつしの質問）

本県における在留外国人数は、２０２２年１２月時点で１５０７８人で、２０１０年末比較で約1.7倍になっている。一方県人口は減少しており、在留外国人が県人口に占める割合は２０１０年の０．８４％から２０２０年の１．４９％と大幅に上昇している。統計局によると、日本総人口に占める外国人比率も、２０７０年には１０．８％まで上昇するといわれている。

本県では、「新かがわ多文化共生推進プラン」に基づき国籍や民族の異なる人々が、地域社会の構成員としてともに生きる多文化共生の地域づくりを進めてきた。

そこで、日本語や日本文化に関する学習を進めるコミュニケーション支援についての本県の取り組みを伺う。

（国際課長の答弁）

同プランで、これまでは外国人を支援の対象として捉えていたが、今後は日本人住民と共に地域を活性化していく担い手として捉え、多文化共生に取り組んでいく。

その中で、コミュニケーション支援は重要であり、日本語講座や生活相談を含めたさまざまなま日本語サロン等を開催し、日本語指導ボランティアの育成にも努めている。

また、今年度からは、日本語教育の専門家に総括コーディネーターを委嘱し、さまざまな角度からの検討を行っている。

（小泉あつしの要望）

これから外国人が増えていく中で、誰一人取り残されないように、日本語教育を進めていくことが、今後の県の発展にも繋がっていくと思う。将来多文化共生が進まないと、働き手不足、差別や偏見、地域の分断など、さまざまな問題が深刻化していくおそれがある。本県に住む外国人の社会参画を促し、地域活性化につなげるよう要望する。

7・災害時における電力供給について

（小泉あつしの質問）

大規模災害時に、最低72時間は自力で食料などをまかなえるのが望ましい。今回の能登半島地震でもわかったとおり、災害発生時には、避難所への電力供給にも支障が生じる。そこで、学校や公民館等の避難所での太陽光発電設備を含めた非常電源の確保の現状について伺う。

（危機管理課長の答弁）

県内の学校などの指定避難所６６１ヵ所のうち、１７８ヵ所に非常用電源設備が設置されている。電源設備の内訳は、太陽光発電が28ヵ所、自家発電設備が86ヵ所等となっている。

（小泉あつしの再質問）

公民館や学校などの指定避難所には太陽光発電設備と発電機の１００％導入を目指してほしい。電気自動車の非常用電源の活用を含め、県としてどのように取り組んでいるのか。

（危機管理総局長）

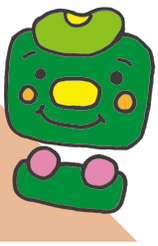
非常用電源としての太陽光発電や蓄電設備の導入に当たっては、必要経費の3分の1を補助することで、設置を促進している。今年度は、この補助制度を活用し、男木島・女木島の指定避難所など5ヵ所で設置した。

指定避難所における電気自動車の活用については、トヨタ販売店グループと災害時応援協定を締結し、保有する40台の自動車などを使用できることになっている。

（小泉あつしの要望）

避難所として指定されていない集会所のような一時避難所においても、最低限の非常用電力確保に取り組んでいただきたい。

＊文字数の関係で一部を抜粋・要約して掲載しています。全文はホームページにて公開いたしますので、詳しくご覧になりたい方はぜひホームページをご確認ください。



koizumiatsushi.com

県議会議員として１年を経て

今回の定例会で４回の会期を終え、１年が経ちます。定例会では、代表質問、委員会審査、一般質問、採決の順に進められ、それぞれ感じることがあります。
本会議や各委員会で他の県議の質問を聞いていて、興味や関心が非常に近いと感じることがあります。
近いどころか、自分の質問とほぼ同じ内容になっていることもあります。
質問が重複することには賛否がありますが、私は重複しても問題ないと思っています。各議員が同じテーマに関心を持っていることが理事者（県）に伝われば、それだけ県政に反映する必要があるという根拠、説得力になると思います。
同じテーマの関心事項については、情報共有し、意見交換することでより学びが深まり、課題の解決に向けた方向性が見えてくることもあります。
同じ関心事項をもつ議員同士で勉強会を開催することも可能だと思います。
今ある特別委員会は、多くの議員が関心のあるテーマについて「継続的に審議が必要」と認められて設置されていることからも、共同して共通のテーマに取り組むことはとても重要なことだと感じています。
この１年間、一般質問でも総務委員会でも、「小豆島にとってプラスになること」を念頭に要望してきました。一般質問では、小豆島中央病院の産科医確保、福祉、農業、脱炭素、発酵食品研究所、多様な学びの場、小豆島中央高校と地域の連携、観光誘客促進、公共交通について、そして総務委員会では、移住定住、外国人との共生、災害時のボランティアセンター設置及び民間事業者との協定、私学助成、瀬戸芸による地域活性化、せとうちジオパーク構想、避難所の電力確保等について質問しました。上記の質問の多くは、小豆島の住民の方々の声を元にしています。
一人ひとりのお困りごとが、その裏に同じ悩みをもつ多くの声を代表しているものと思っています。一度質問したからそれで問題が解決するわけではありません。実現するまで言い続ける、というスタンスでいます。この小豆島の未来をどうやって作るのか、それを担っているのはこの小豆島に住む私たち一人ひとりです。
引き続き、みなさんの声をお聞きしていきます

小泉あつし プロフィール

昭和５７年　９月２０日京都府京都市生まれ
平成１３年　京都府洛北高校　卒業
平成１８年　立命館大学法学部　卒業
平成２４年　青山学院大学大学院　法学研究科修了
平成２５年　障害福祉サービスに５年間従事
平成２９年　小豆島へ家族で移住
平成３０年　あすなろの家　職業指導員、
　　せいけんじこども園　保育士
令和２年　児童福祉サービス
　　アースハーモニー管理者
令和５年　香川県議会議員　初当選

趣味：DIY、登山、家庭菜園、断食、英会話、ピアノ
　　ギター、SUP、読書、子どもと遊ぶこと、カラオケ
好きな言葉：上善は水の如し

２・３月議会スケジュール

2/16(金) 本会議・開会 提案理由説明
2/21(水) 代表質問
2/22(木)-26(月)-27(火) 総務委員会
2/28(水)-29(木)-3/1(金) 環境建設委員会
3/4(月)-5(火)-6(水) 文教厚生委員会
3/7(木)-8(金)-11(月) 経済委員会
3/12(火) 本会議・追加議案上程　委員会・各常任委員会
3/14(木)-15(金) 本会議・一般質問
3/18(月) 委員会・各常任委員会（態度決定）
3/19(火) 本会議・委員長報告 討論 採決 閉会

小泉あつし公式 HP はこちらから

koizumiatsushi.com

小泉あつし事務所のご案内

草壁にある小泉あつし事務所は住民相談、県議の仕事の説明、
住民の憩いの場として開放しています。
また定期的に報告会、住民相談会なども行っています。
活動報告などの資料もあるので、県議の仕事が気になる方、
ご意見などある方、どなたでもお気軽にお越しください。
人々が集まる場所になれるよう、温かい空間を作っていけたらと思います。

小泉あつし事務所
〒761-4432 香川県小豆郡小豆島町草壁本町１０５３-3
TEL : 070-9229-5202　開所日：月・水・金　9:30～12:30